

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																										
足利デザイン・ビューティ専門学校	昭和51年12月24日	清水 博	〒326-0822 栃木県足利市田中町914 (電話) 0284-72-2981																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																										
学校法人白百合学園	昭和42年3月6日	理事長 田鶴 志郎	〒326-0822 栃木県足利市田中町914 (電話) 0284-72-2981																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																									
文化・教養	文化教養専門課程	クリエイティブデザイン科	平成26年文部科学省告示第17号	—																									
学科の目的	クリエイティブ・デザイン科は、高等学校教育の基礎の上に、デザイン分野のキャリア形成に対して必要な能力・態度を育成し、勤労観・職業観等を自ら形成・確立できる人材を育成することを目的とする。																												
認定年月日	平成30年2月27日																												
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験																								
2年	2,368時間	848時間	1,680時間	32時間	—																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
100人	30人	0人	4人	9人	13人																								
学期制度	■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～ 3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期テスト・出席数・課題内容により総合判断																									
長期休み	■学年始: 4月 1日～ 4月 4日 ■夏季: 7月21日～ 8月31日 ■冬季: 12月26日～ 1月 7日 ■学年末: 3月26日～ 3月31日	卒業・進級条件		2年において2,368単位時間以上の認定を受けたもの																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談・三者面談・訪問等	課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学外ボランティア ■サークル活動: 有																									
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 印刷会社、広告会社、デザイン事務所 ■就職指導内容 講義、個別指導 ■卒業者数 26 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 : 100 % (平成 29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webクリエイター能力認定試験スタンダード</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>Word文書処理技能検定3級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>フロンティア販売検定3級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ジュエリーコーディネーター検定3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Webクリエイター能力認定試験スタンダード	③	11人	8人	Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	29人	19人	Word文書処理技能検定3級	③	29人	21人	フロンティア販売検定3級	③	4人	4人	ジュエリーコーディネーター検定3級	③	3人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
Webクリエイター能力認定試験スタンダード	③	11人	8人																										
Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	29人	19人																										
Word文書処理技能検定3級	③	29人	21人																										
フロンティア販売検定3級	③	4人	4人																										
ジュエリーコーディネーター検定3級	③	3人	3人																										
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 2% 平成29年4月1日時点において、在学者4名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者4名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談・三者面談等																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.acd.ac.jp/course/#cd">http://www.acd.ac.jp/course/#cd</a>																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか「就職者数(関連分野)」は「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また「その他」の欄は「関連分野へのアルバイト者数や准

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を設け機能させることにより、キャリア教育・職業教育双方の充実を図る。企業等との密接な連携を図り、社会的・職業的自立に必要な能力や態度、最新の実務の知識・経験を教育内容に反映させる。教育課程においては企業と連携した授業を編成し、情報交換を通して授業の改善も行う。また、授業方法に対しては演習型授業を取り入れる。分野の幅が広い学科なのでそれに対応するような企業との連携を図り就職に直結した指導を目指す。地元企業との関わりを増やし地元産業の活性化に尽力したい。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成に関する規程、規則により、本校教務部より独立した組織として位置付ける。(組織図参照)

教育課程の編成においては基本的に実践的かつ専門的な職業教育を主体として実施するが、卓越又は熟達した実務の知識・経験に基づく高度の専門的かつ実践的な知識・技術等を教授するため、委員会においては企業等より意見等を収集し教育課程の編成において反映することができる教育内容・教育方法を検討し、実践していく。教務部で検討され、校長が決定する。事案によっては、理事・評議員会で採択する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
山形 正喜	関東地区理容師美容師養成施設協議会 会長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
小此木 広光	有限会社カスヤ美容室 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
中里 由美子	有限会社ベルウッド 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
田中 文子	栃木県ニット工業協同組合 理事長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
和田 光永	有限会社ワダノブテックス 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
野村 タカ子	ファクトリー-有限会社 取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
山口 勇	スリーエス 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
深田 三徳	一般社団法人全日本ブライダル協会 専務理事	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
榎原 哲夫	日本ウェディングプランナー・ネットワーク協会 代表取締役社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
新藤 朋一	株式会社ニューミヤコホテル 営業部長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
森 伸行	一般社団法人日本エステティック協会 理事 滝川株式会社 取締役副社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
滝川 裕史	NPO法人日本ネイリスト協会 理事 滝川株式会社 取締役副社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
栗原 ゆかり	コンシェボーテ プチリアン 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
古味 忍	株式会社TAT 東日本営業部課長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
大川 みゆき	プリントザウルス国際版画交流協会 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	①
椎名 則之	株式会社SHIINA設計 代表取締役 足利商工会議所常議員	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
鶴見 裕也	スペアミント 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③
猪瀬 貞雄	イノセ宝石株式会社 代表取締役社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	③

清水 博	足利デザイン・ビューティ専門学校 学校長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
田鶴 和子	足利デザイン・ビューティ専門学校 教務部長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
田鶴 大道	足利デザイン・ビューティ専門学校 理事長補佐・ファッションデザイン科教員	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
山本 和哉	足利デザイン・ビューティ専門学校 総務課長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
海老原 恵利人	足利デザイン・ビューティ専門学校 美容総合科主任	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
井垣 知秀	足利デザイン・ビューティ専門学校 教務主任	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	
和田 純子	足利デザイン・ビューティ専門学校 トータルビューティ科主任	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
年間開催数:2回 開催時期:毎年度8月、3月を目安とする。

(開催日時)

第1回 平成29年8月24日 13:00～14:00

第2回 平成30年3月20日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

地域に残り、地域で活躍したい学生と上京したい学生がいる。地域によっても求める人材が異なる。個々のクリエイティビティを育てる必要がある。という委員会からの意見を受け、学校長ならびに教務部長は、別紙様式1-2におけるマーケティングに対する取組みにおいて特に企業・組織との連携を図り、意見を取り入れながら、授業ができるよう、当該学科教職員に指示し、当該学科教職員は話し合い改善を図った。その結果は、次回の教育課程編成委員会にて報告する。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携においては、以下の企業との連携を基本に考える。

- ・常に最新の情報・知識の吸収を行うべく、研磨をおこなっている企業・組織等
- ・地域と密接に関わり合いをもち、かつ、地域貢献を念頭に置きサービスを行っている企業・組織等

また、校内・校外の指定はせず、企業の取り組みと学生の教育が最大限に計られる方法を企業と共同しながら実践していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

授業科目の担当教員と受け入れ企業・組織の担当者が実習前に最低1回以上事前の打合せを行い、実習内容、評価指標、指導方針等を決定する。実習・授業期間中は企業等の講師・担当教員が情報交換を行い、学生に対し、更なる改善・工夫の助言等を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
マーケティング	マーケティングの基本を体系的に理解し、実際の具体例を通して習得する。企業が成長するための戦略を自分で考えることができるよう指導する。足利商工会議所と連携し、チャレンジショップを通して、実店舗のマネジメントや接客を学ぶ。	足利商工会議所

## 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修においては学校法人白百合学園において教員研修規程を定め、教員各々が持つ専門的分野及び教員としての指導力

の分野における能力をより研磨できるように計画する。

また、専門的分野、指導力の分野における両研修ともその時代の必要性に応じて弾力的に内容、対象、実施回数を決定して

いく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 対象: クリエイティブデザイン科教員 学外にて実施  
 内容: 石畳stand up project ワークショップ  
 期間: 平成29年7月3日  
 概要: 足利市商工振興課様と連携し、ワークショップが行われる。研修を受け、マーケティングやディスプレイ等の授業に役立てている。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 対象: 全科教員 学内にて実施  
 内容: キャリアサポート  
 期間: 平成29年4月22日  
 概要: 有限会社シバナアンドアソシエイツ様と連携し、研修を依頼したものである。キャリアサポートの研修が行われる。就職指導の進め方や就職環境などの講義を受け、ロールプレイングなどを交えながら、研修が行われた。就職指導に役立てている。(学内にて実施)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 対象: クリエイティブデザイン科教員 学外にて実施  
 内容: 第4回足利流5Sサミット  
 期間: 平成30年11月8・9日  
 概要: 足利市商工振興課様と連携し、おもてなしや店舗設営における看板の見せ方やディスプレイの仕方などの研修を受け、マーケティングやディスプレイ等の授業に役立てる。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 対象: 全科教員 学内にて実施  
 内容: キャリアサポート  
 期間: 平成31年3月  
 概要: 有限会社シバナアンドアソシエイツ様と連携し、研修を依頼したものである。キャリアサポートの研修が行われる。就職指導の進め方や就職環境などの講義を受け、ロールプレイングなどを交えながら研修を行い、就職指導に役立てる。(学内にて実施)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校評価に関する規程に基づき学校関係者評価委員会を組織する。  
 評価委員会は本校の教育活動・学校運営に対し評価を行い、本校はそれを受け、重点化された評価内容、必要な助言等を次年度の重点目標の設定に反映させ改善につなげる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	● 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ● 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	● 目的等に沿った運営方針が策定されているか ● 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
(3) 教育活動	● 授業評価の実施・評価体制はあるか ● 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか
(4) 学修成果	● 退学率の低減が図られているか ● 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	● 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ● 課外活動に対する支援体制は整備されているか ● 学生の生活環境への支援は行われているか ● 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	● 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	● 学生募集活動は、適正に行われているか ● 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか
(8) 財務	● 財務について会計監査が適正に行われているか

(9)法令等の遵守	●法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	●学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11)国際交流	●留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員から、学校運営に関して理事長から教職員までの仕組みは理解できるが、それからどう学生まで伝達されていくのかが不明であるという意見を受け、現存する「校務分掌」の存在と役割を明確にし、評価結果報告書への記載をし、改善を図った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
山形 正喜	関東地区理容師美容師養成施設協議会 会長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
小此木 広光	有限会社カスヤ美容室 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
中里 由美子	有限会社ベルウッド 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
田中 文子	栃木県ニット工業協同組合 理事長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
和田 光永	有限会社ワダノブテックス 代表取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
野村 タカ子	ファクトリー有限会社 取締役	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
山口 勇	スリーエス 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員 卒業生・保護者代表
深田 三徳	一般社団法人全日本プライダル協会 専務理事	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
榊原 哲夫	日本ウェディングプランナー・ネットワーク協会 代表取締役社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
新藤 朋一	株式会社ニューミヤコホテル 営業部長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
森 伸行	一般社団法人日本エステティック協会 理事 滝川株式会社 取締役副社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
滝川 裕史	NPO法人日本ネイリスト協会 理事 滝川株式会社 取締役副社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
栗原 ゆかり	コンシェポーテ プチリアン 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
古味 忍	株式会社TAT 東日本営業部課長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
大川 みゆき	プリントザウルス国際版画交流協会 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	業界団体委員
椎名 則之	株式会社SHIINA設計 代表取締役 足利商工会議所常議員	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
鶴見 裕也	スペアミント 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
猪瀬 貞雄	イノセ宝石株式会社 代表取締役社長	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	企業委員
吉原 敦子	卒業生・保護者 代表	平成29年1月1日～ 平成30年12月31日(2年)	卒業生・保護者代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<http://www.acd.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人白百合学園において、情報公開に関する規程を定め、関連企業が連携を結ぶに当たりより適切かつ有用な情報を提供することで、連携しやすい環境整備に努める。また、実践的な職業教育、キャリア教育を創出することを旨とした学校運営をしていることを多くの企業に知らせることで、新たな連携企業の開拓につなげ、今後に向けた幅広い授業連携の可能性を追求する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史 ●学校の教育目標
(2)各学科等の教育	●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●卒業者数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	●教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	●課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	●学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	●監査報告書 ●財産目録
(9)学校評価	●自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.acd.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

文化教養専門課程クリエイティブデザイン科															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			CSプロジェクト演習	全学科コラボレーションによるコラボショーの演出物をデザイン・制作する。	2 ②	32	2		○		○				
○			イラストレーター	デザイン業界では標準汎用ソフトである両ソフトの基本操作を学習し、検定資格取得を目指す。	1 ①	48	3		○		○				○
○			タイポグラフィ	文字の構造を理解し、正しく形にすることを学ぶ。	1 ①	32	2		○		○				○
○			デザインプロセス研究	物作りの方法、過程等について、制作物を通して実践的に学ぶ。	1 前	64	4		○		○				○
○			デザイン演習(コンペ)	各専攻の実践的な体験の場として、外部コンペへの出品を通して、専門技術を高める。(各専攻毎にテーマを設定)	2 ③	32	2		○		○				○
○			デザイン特論I(コラボ)	様々なデザインのあり方について、多角的に学ぶ。	1 ④	32	2		○		○				○
○			デザイン特論II	様々なデザインのあり方について、多角的に学ぶ。	2 ④	32	2		○		○				○
○			デザイン論	デザインの本質的な役割とその構成方法を学習する。	1 前	64	4		○		○				○
○			パース演習I	奥行きのある作品づくりのため、透視図法を学ぶ、また略式パースを理解することで、スケッチ等における表現方法を学ぶ。	1 ③	32	2		○		○				○

## 文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			パソコン実務	Word・Excel・インターネット等、初級～中級程度を目標とする。（授業の中で資格取得をする）	1前	64	4	○			○	○			
○			ビジネス実務	ビジネス業務に対する心構え、対人心理などの理解、対応の技術、言葉遣いなどのマナーを学び、検定を受験。	1①	32	2	○			○			○	
○			フォトショップ	デザイン業界では標準汎用ソフトである両ソフトの基本操作を学習し、検定資格取得を目指す。	1②	48	3	○			○				○
○			プレゼンテーション	幅広いデザインの基礎・プレゼンテーションの技法等について学ぶ。	2④	32	2	○			○			○	
○			マーケティング	マーケティングの基本を体系的に理解し、企業が成長するための戦略を自分で考えることができるよう指導する。	2前	64	4	○			○			○	○
○			一般教養	就職及び進路相談。就職に対する意識付け、就職活動のノウハウを身につける。	2①	32	2	○			○			○	
○			色彩学	色彩検定対策を基軸に色彩について学ぶ。	1②	32	2	○			○				○
○			進級制作	1年間の学習成果を1つの作品にまとめ、発表する。	1後	160	10	○			○			○	○
○			造形心理学	造形物が人に与える影響はもとより、テスト、評価の繰り返しの訓練が必要との認識をもたせ、造形物が人に与える影響を意識的に理解することを目標とする。	1①	32	2	○			○			○	



文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業制作	2年間の学習成果を1つの作品にまとめ、発表する。	2 後	160	10			○	○	○	○		
○			表現技法 I	造形するための基本的な道具の使い方から素材の扱い方等を学ぶ。	1 ③	32	2			○	○		○		
○			立体構成	立体を使用し、表現対象を把握し、制作意図を明確にし、その作品の持つ象徴的なイメージによって、見るものの意識に「何か」を作り出す工程、表現方法を学習、実	1 ③	32	2			○	○		○		
	○		C I	仮想企業に対して、C I 提案を行う手法を通してデザイン実習を行う。	2 ③	32	2			○	○		○		
	○		D T P I	業界の決められた工程を説明。多岐に渡る手法、アプリケーション等を実際にいくつかの作品を作成することで理解する。	1 ④	96	6			○	○		○		
	○		D T P II	業界の決められた工程を説明。多岐に渡る手法、アプリケーション等を実際にいくつかの作品を作成することで理解する。	2 通	128	8			○	○		○		
	○		D T P 企業課題	業界の決められた工程を説明。多岐に渡る手法、アプリケーション等を実際にいくつかの作品を作成することで理解する。	2 通	128	8			○	○		○		
	○		F l a s h	w e bアニメーションの作成を中心に、基本操作からw e bサイトへの応用までを実習。	2 ②	32	2			○	○		○		
	○		In design	雑誌の誌面などのページ物のデザインで今主流になりつつあるソフトである In d e s i g n を使った実習。	2 ①	32	2			○	○		○		

文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		POP	マーケティングを根底に持ち、末端または消費者に一番近い部分を担うポップを色々な手法を使用し表現する。	1 ③	32	2		○		○				
	○		SP研究	マーケティング分析から、必然的なSP戦略・戦術を導き出し、効果的なプロモーション展開の企画を立案するノウハウを学ぶ。	2 前	64	4	○			○		○		
	○		webA I	WEBサイト制作の基本として、html、cssを学び、検定取得を目指すとともに、Webクリエイター能力認定試験初級取を目指す。Dreamweaverを使用して基本的なサイトを作れる能力を身につける。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		webA II	WEBサイト制作の基本として、html、cssを学ぶ。Dreamweaverを使用して基本的なサイトを作れるようになる。様々なクライアントの要求するサイトを制作できるようになる。	2 ①	32	2		○		○		○		
	○		webB	WEBサイト制作の基本として、html、cssを学ぶ。Dreamweaverを使用して基本的なサイトを作れるようになる。	2 ③	32	2		○		○		○		
	○		イラストCG	イラストを用いる事により物事をわかりやすく説明する手段を学ぶ。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		イラストレーションI	手書きの基礎、応用を様々な画材やタッチを変化させ、それによる傍観者の心情変化などを体験・学習する。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		イラストレーションI	手書きの基礎、応用を様々な画材やタッチを変化させ、それによる傍観者の心情変化などを体験・学習する。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		イラストレーションII	手書きの基礎、応用を様々な画材やタッチを変化させ、それによる傍観者の心情変化などを体験・学習する。	2 通	64	4		○		○		○		
	○		インテリアCAD I	Jw-CADのオペレーション技術を身につけ、レイヤの概念等を学ぶ。	1 ④	32	2		○		○		○		

文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		インテリアCADⅡ	Jw-CAD、のオペレーション技術について、2.5D、着色等、実践的な技術を身につける。	2後	64	4		○		○		○		
	○		インテリアCG	Vectorworksのオペレーションにおける、2D・3D、図面の作図技術を身につける。	2④	32	2		○		○		○		
	○		インテリアコーディネート	主に住宅のコーディネート知識を身につけるとともに、一部インテリアコーディネーター資格試験受験対策を行う。	2④	64	4		○		○		○		
	○		インテリア計画Ⅰ	住居学及び住居系建物の計画論について学ぶ。	1後	32	2	○			○			○	
	○		インテリア計画Ⅱ	事務所ビル・公共施設・商業施設建物等の計画論について学ぶ。	2③	64	4	○			○			○	
	○		インテリア施工Ⅰ	木造住宅の出来るまでを通して建築物の施工について学ぶ。	1④	32	2	○			○			○	
	○		インテリア施工Ⅱ	鉄筋コンクリート造・鉄骨造の施工について学ぶ。	2③	32	2	○			○			○	
	○		インテリア設備Ⅰ	住宅設備（電気・衛生・給排水・空調等）について学ぶ。	1④	32	2	○			○			○	
	○		インテリア設備Ⅱ	大規模建築設備（電気・衛生・給排水・空調）等について学ぶ。	2①	32	2	○			○			○	
	○		インテリア法規Ⅰ	建築基準法の概要及び関連法規についての知識を身につける。	1③	32	2	○			○			○	

文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		インテリア法規Ⅱ	建築基準法及び関連法規についての知識を身につける。	2 ③	32	2	○			○			○	
	○		エディトリアル	グラフィック的な手法とは別の考え方を必要とする「編集作業」を含み、簡単な手法・アプリケーションを理解する。	2 後	96	6	○			○			○	
	○		キャラクターデザイン	企業のマスコットキャラクターを中心に、クライアントの要望に応えられるキャラクター作りを目指す。	2 ①	32	2	○			○			○	
	○		サービス接遇	業務に対する心構え、言葉使い、マナーを身に付け検定を習得する。	1 ②	32	2	○			○				○
	○		ジュエリーブランド	制作技術を学びながらオリジナルジュエリーブランドを立ち上げるためのノウハウを身につけていく。	2 通	128	8	○			○				○
	○		ジュエリー概論	宝石やその歴史等について学ぶ。	1 ④	32	2	○			○				○
	○		ジュエリー基礎実習	ジュエリー制作の基礎を学んでいく。ワックス原型を製作し、仕上げまで行う。また、サイズ直し、石留めの仕方等を学んでいく。	1 ② 後	96	6	○			○				○
	○		ショップエレメント	店舗デザイン・設計における基礎、計画スケジュール等を習得し、路面店におけるショップの構成、制約等について理解する。コンセプトデザインを習得する。	2 ④	64	4	○			○				○
	○		ショップデザイン	店舗デザイン・設計における基礎、計画スケジュール等を習得し、ショッピングセンター（SC）におけるショップの構成、制約等について理解する。	2 ②	64	4	○			○				○

## 文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		スケッチワーク	イメージをカタチにするためにデッサンで得た観察力により短時間で数多くのアイデアスケッチを描く能力を身につける。	1 ③	32	2		○		○				
	○		ディスプレイ	商空間デザインに関する全般的な知識を学び、実習など実践的な部分も学習する。	2 ③	32	2		○		○				
	○		テクニカルイラスト	高度な技術を使用したイラストレーションの実習。	2 後	64	4		○		○				○
	○		デザイン・制作実習	総合的なデザイン力の向上を目指した実習。	2 ② ③	96	6		○		○				
	○		デザインクラフト実習	実制作を通して様々な素材の特徴を知ると共に機能性や形態の考察を行っていく。	2 前 ③	160	10		○		○				
	○		デッサンA	手を使い描くことで観察力を養う。形態の持つ美しさや意味を考察していくことにより造形感覚を身につける。	1 前	96	6		○		○				
	○		デッサンB	手を使い描くことで観察力を養う。形態の持つ美しさや意味を考察していくことにより造形感覚を身につける。	1 通	192	12		○		○				○
	○		ファッション販売	アパレル業界の流通の役割と機能、販売技術や商品管理などを学ぶ。	2 ② 後	96	6	○			○				○
	○		ペインター	ペンタブレットを使用し、Mac上でイラストレーションの色づけまで完成させていく実習。	2 ②	32	2		○		○				○

## 文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ベクターワークス	3DCADの基本的な操作方法を学んでいく。	2 ①	32	2		○		○		○		
	○		マルチメディア特論	実写映像を撮影・編集する技術を学びながら、マルチメディアの基礎知識を習得する。	2 ②	32	2		○		○		○		
	○		ラッピング	社会に出て即戦力となるようにTPOに合わせたラッピング力を身につける。	2 ③	32	2		○		○		○		
	○		レザークラフト	革の基本的な技術を習得していく。	1 ①	32	2		○		○		○		
	○		レタリング	文字の構造を理解し、正しく形にすることを学ぶ。レタリング検定3・4級資格取得を目指す。	1 ①	32	2		○		○		○		
	○		ワックス技法	ロストワックス技法によるシルバーアクセサリー制作の仕方を学ぶ。	1 ①	32	2		○		○			○	
	○		印刷概論	印刷業・デザイン業をする上で必要な一般的な印刷知識・歴史・種類と原理、写真製版の原理を現状一般に行われているDTPにおける工程として学習。DTP検定Ⅱ種取得を目標とする。	2 前	64	4	○			○		○		
	○		家具デザイン	家具のデザインについて学び、実習を通して図面制作を行う。	2 ② ③	32	2		○		○		○		
	○		家具製作	家具のデザインについて学び、実習を通して図面制作を行う。	1 ③	32	2		○		○		○		

## 文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		企画開発	雑貨業界における商品企画の方法、効果的なプロモーション展開の企画を立案するノウハウなどを学ぶ。	2 後	64	4		○		○			○	
	○		空間模型	きれいな模型を早く作る技術を学ぶことを通して、物の構成・空間スケール感覚を養う。	1 ④	32	2		○		○			○	
	○		経営管理	販売や運営など経営管理に関することを学んでいく。	2 ①	32	2	○			○			○	
	○		広告イラスト	イラストレーションを利用した広告物を企画し、その企画に沿った作品を制作。	2 ③	64	4		○		○			○	
	○		広告概論	デザインの歴史、デザイン運動の流れを考察することを通して現代デザインの概念の樹立を確認し、自分の置かれている状況を把握する。	1 ③	16	1	○			○			○	
	○		写真Ⅰ	写真の原理を白黒写真を使用し、撮影～現像～紙焼きまでを実習。商業写真の撮影の方法、物撮り・人物・風景に分け、商業デザインにおける写真の重要性を実習を通じて学習し、具体的な制作物を仮想し最終的に商品にたどり着く形に仕上げます。	1 ②	32	2		○		○			○	
	○		写真Ⅱ	写真の原理を白黒写真を使用し、撮影～現像～紙焼きまでを実習。商業写真の撮影の方法、物撮り・人物・風景に分け、商業デザインにおける写真の重要性を実習を通じて学習し、具体的な制作物を仮想し最終的に商品にたどり着く形に仕上げます。	2 前	64	4		○		○			○	
	○		商空間デザイン	商業施設について学び、課題の中で商業空間をデザインする。	2 前 ③	96	6		○		○			○	
	○		商品知識	本校における雑貨の商品カテゴリー各々に対し、種類、上代などその商品に関する情報の整理と知識を学ぶ。	1 ③	32	2	○			○			○	

## 文化教養専門課程クリエイティブデザイン科

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		照明デザイン	照明計画を学び灯具の制作を行うことで、新しい技術等を身に付ける。	1 後	64	4			○			○		
	○		照明実習	照明計画を学び灯具の制作を行うことで、新しい技術等を身に付ける。	2 後	64	4			○			○		
	○		図学	製図を描く上で必要な知識及び技術を身につける。	1 ①	32	2			○			○		
	○		西洋服装史	服装の変遷、西洋の服装史を学ぶことで什器・店舗デザインの基礎知識等を学ぶ。	1 ④	32	2	○					○		
	○		設計製図Ⅰ	木造住宅図面のコピーを通して建築に必要な図面・製図・住宅について学び、小住宅設計をする。	1 ③	64	4			○				○	
	○		設計製図Ⅱ	前半、集合住宅図面コピーを通してRC造について学び、課題設計をする。後半、小規模展示施設の設計を通してS造について学ぶ。	2 ③	96	6			○					○
	○		陶芸実習	土のあたたかさや日本工芸のワビ、サビの心を学びながら焼き物制作を行っていく。	2 ③	64	4			○					○
	○		表現技法Ⅱ	一つのモチーフから表現を変えることで、様々なイメージを与えることができクライアントに合う表現、または売る為の表現を探る。	2 前	64	4			○					○
	○		福祉住環境	福祉住環境コーディネーター資格試験受験対策。	2 ①	32	2	○							○



文化教養専門課程クリエイティブデザイン科															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		平面構成	画面を構成する造形要素として、実際に印刷で使用される4色を使用し、基礎的な理論の把握と造形要素としての特性を理解し制作実習する。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		縫製実習Ⅰ	ミシンの基礎的知識を身につける。バッグの構造・作りかたを知る。	1 ③	32	2		○		○		○		
	○		縫製実習Ⅱ	一年次に習得した縫製の技術を活かし帽子の製作を行っていく。帽子の効果的な活用法を学ぶ	2 ③	32	2		○		○		○		
合計								2,384単位時間( 149単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2カ年において2,368単位時間以上の認定を受けたもの	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	8週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。